

2024年12月17日

2024年度第11回Jリーグ理事会後会見発言録

2024年12月17日(火) 17:00～

Jリーグ会議室および Web ミーティングシステムにて実施

登壇: チェアマン 野々村 芳和

執行役員 樋口 順也

陪席: 執行役員 窪田 慎二

執行役員 青影 宜典

執行役員 笹田 賢吾

司会: 広報部長 仲村 健太郎

【司会(仲村広報部長)より説明】

本日開催いたしました第11回理事会後の会見を開催いたします。

《決議事項》

1. 2026年前半シーズン移行期の特別大会について

<https://aboutj.league.jp/corporate/pressrelease/post.php?code=075c7ea5-a66e-4f9f-a93c-Odae38332a03&y=&m=&q=>

こちらは後ほど執行役員の樋口からご説明いたします。

その他の報告事項として5点ございます。

《その他報告事項》

1. 2025 明治安田Jリーグ年間順位決定方法について

<https://aboutj.league.jp/corporate/pressrelease/post.php?code=632e6e37-f0b1-4afc-8f5f-c2cc85ce0ca1&y=&m=&q=>

年間順位決定方法につきましては、リーグ戦が終了した時点で勝点が多いチームを上位として順位を決定します。勝点と同じ場合は、以下の順によって順位を決定しています。2024 シーズンまでは、勝点と同じ場合、1.得失点差、2.総得点数、3.当該チーム間の対戦成績、そして 4.反則ポイント、5.抽選、という順で順位を決定していましたが、2025 シーズンからは 1.得失点差、2.総得点数、3.当該チーム間の対戦成績、そして 4.抽選という順で決定することにいたしました。年間順位決定方法は、2024明治安田J1・J2・J3リーグ試合実施要項に記載をしています。来年 2025 年度版をアップデートするとともに 12 月 27 日の日程発表でも大会方式の詳細として記載いたします。

2. 2025 シーズン追加登録期限について

<https://aboutj.league.jp/corporate/pressrelease/post.php?code=aa9da02e-0dac-47ae-b029-da6de1c3178d&y=&m=&q=>

2025明治安田Jリーグおよび2025Jリーグ YBC ルヴァンカップの出場資格を得るための選手追加登録追加工限を下記の通り決定いたしました。

2025シーズンの登録期間ウインドーの期間は、第1登録期間が2025年1月20日～3月26日、第2登録期間が2025年7月7日～8月20日となります。

そして、2025シーズンに限り、特別登録期間として2025年6月1日～6月10日までという期間を設けています。こちらの特別登録期間は、FIFA クラブワールドカップ 2025 の出場クラブが所属する各国のサッカー協会が設置することを可能としているもので、出場クラブのみならず全クラブが対象となります。それに加え、今回追加登録期間として明治安田J1リーグからJ3リーグまでを9月12日、ルヴァンカップの追加登録期間を10月3日とそれぞれ定めています。

3. 明治安田 J2・J3リーグにおけるU-21 選手の出場奨励金について

<https://aboutj.league.jp/corporate/pressrelease/post.php?code=f113e5ea-dd5e-40a7-aa78-836afbfe0408&y=&m=&q=>

出場奨励金の支給対象クラブはJ2のV・ファーレン長崎、水戸ホーリーホック、愛媛FC、J3のテゲバジャーロ宮崎、ギラヴァンツ北九州、福島ユナイテッドFC、いわてグルージャ盛岡、カマタマーレ讃岐、FC琉球の9クラブです。U-21 選手の出場奨励金のルールとして、年間3,420分以上に出場したものを基準値とし、その基準値を超えたクラブに1クラブあたり300万円の奨励金をお支払いすることとしています。対象の大会はJ2・J3のリーグ戦のみとしており、対象選手は2024年12月31日において満21歳以下の日本人選手としています。

4. 2024年度Jリーグ功労金制度授与対象者について

<https://aboutj.league.jp/corporate/pressrelease/post.php?code=3cc3dd96-18c1-4993-9102-6d72e640542e&y=&m=&q=>

2024年度のJリーグ功労金制度授与対象者をお知らせいたします。

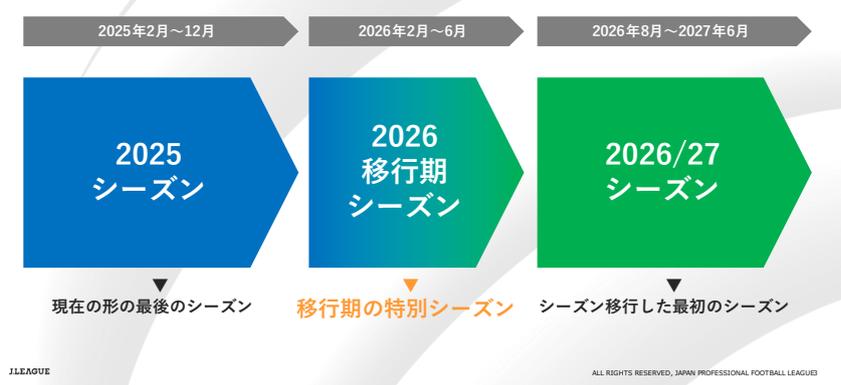
本制度はJリーグ表彰規定に基づき、Jリーグから登録抹消となった選手の試合出場実績に対して功労支援金を授与するものです。対象者は表の通りとなります。2020シーズンから2023シーズンまでの間にJリーグに登録されており、今シーズン・2024シーズンにはJリーグに登録していない選手のうち、換算後の出場試合数が300試合以上の選手に対してお支払いするものです。換算後の出場試合数としまして500試合以上で300万円、400試合以上500試合未満で200万円、300試合以上400試合未満で100万円という金額をお支払いしています。

5. 【後援】第1回ソーシャルフットボールアジア大会

《2026 年前半 シーズン移行期の特別大会について樋口執行役員より説明》

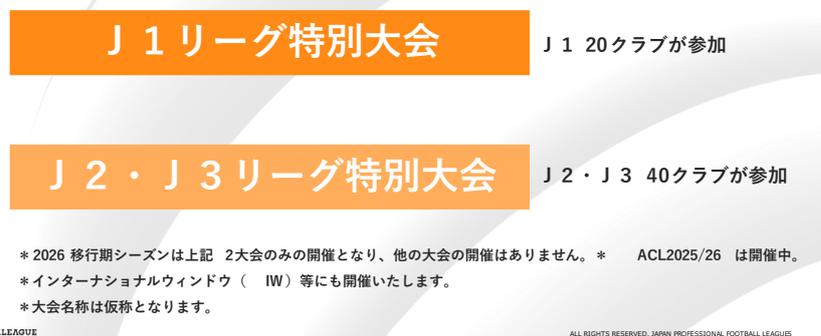
Jリーグは、2026 年からシーズン移行するため、来シーズン 2025 シーズンが従来の形の最後のシーズンとなります。2026 年 8 月頃からシーズン移行した大会を迎えることとなりますが、その間の 2026 年の前半を「移行期のシーズン」と定義しています。この移行期の特別な大会について本日決議をしています。

シーズン移行のための 『移行期』



約半年間のシーズンとなります。シーズン移行というJリーグが開幕してから 30 数年が過ぎた中で非常に特別なタイミングだと考えています。どのような大会が良いのか 1 年以上かけ、選手の観点、ファン・サポーターの観点、様々なステークホルダーの観点、クラブの経営の観点などから様々な議論をいたしました。例えば 0.5 シーズンが良いのか 1.5 シーズンが良いのか、昇降格がある方が良いのか無い方が良いのか、リーグ戦が良いのかカップ戦などを複数やる方が良いのか、色々な議論を進めた上で、今回の理事会でこの特別な大会の決議を行いました。

2026 移行期シーズン



大会としては 2 つの大会を開催いたします。

J1の 20 クラブが参加する特別大会、それからJ2、J3の 40 クラブが混同する形で行う特別大会の 2 大会です。FUJIFILM SUPER CUP やルヴァンカップ、天皇杯は開催いたしません。なお AFC チ

チャンピオンズリーグ(ACL)がシーズン移行した形で開催されていますので、今シーズン 2024 シーズンのJリーグの結果により、ヴィッセル神戸やサンフレッチェ広島が参加する2025年の夏から始まるACLに参加するクラブは、ACLを戦いながらこの特別大会を実施することになります。特別大会の名等は仮称で、今後変更の可能性がございます。

特別大会の注目ポイント



- 地域に分かれたリーグ戦ラウンド
- PK戦による完全決着方式
- J1特別大会のチャンピオンには ACLエリートの出場枠
- 『勝点1ごと』『最終順位ごと』の特別助成金(総額18億円)

JLEAGUE

ALL RIGHTS RESERVED, JAPAN PROFESSIONAL FOOTBALL LEAGUE

特別大会の注目ポイントです。後ほど詳細をご説明いたしますが、地域に分かれたリーグ戦ラウンドを行います。10チームずつのリーグ戦を予定していますが、地域ごとに分かれたものとなることから、各地域のダービーマッチが数多く開催されることとなります。

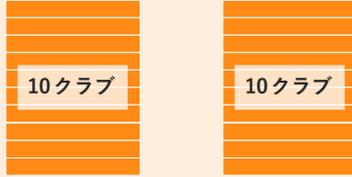
またリーグ戦でも、「90分で引き分け」という結果は用いず、ドローとなった場合は全ての試合でPK戦を実施し完全決着をつける形となります。またJ1リーグ特別大会のチャンピオンにはACLエリートの1枠を提供する予定です。そして両大会とも昇格と降格はこのタイミングでは行わないことといたします。

一方で1つでも順位を上げることをクラブも、ファン・サポーターの皆さまにも楽しんでいただきたいという観点から、「勝点1ごと」、「最終の順位ごと」で特別助成金・総額18億円をリーグから配分いたします。

特別大会での昇降格はございません。来シーズン2025シーズンの昇降格は、これまで通りJ1・J2間、J2・J3間それぞれ3枠とJ3・JFL間の昇降格を行います。来シーズンの昇降格が終わった編成でJ1大会に出るクラブ、J2 J3大会に出るクラブが確定いたします。この特別大会では昇降格は行いませんので、2025シーズンが終わって昇降格を経た編成でそのまま2026/27シーズンのシーズン移行した大会も迎える形になります。

J1リーグ特別大会 ①地域リーグ ラウンド

【東地域グループ】 【西地域グループ】



*グループ分けは、2025シーズン終了後の調整権を踏まえて決定します。
なお、調整権限（1～2ヶ月頃にホーム開催が可能な）クラブのバランスや、
同都道府県クラブができる限り同グループになるように等、調整の上で決定します。

JLEAGUE

ALL RIGHTS RESERVED, JAPAN PROFESSIONAL FOOTBALL LEAGUE.2

- 各グループ内で H&A のリーグ戦
 - 1クラブあたり 18試合（H9試合）
 - 全180試合（2グループ合計）
- 90分で勝敗が決しない場合は PK戦
 - PK戦による勝点：「勝利2」「敗戦1」
 - 延長戦：実施なし
- 勝点1ごとの特別助成金（総額 10.8億）
 - 全20クラブに勝点1あたり200万
 - 勝点3の場合 → 1試合あたり600万
 - 最大で勝点54 → 1億800万が獲得可能

J1リーグ特別大会 ②プレーオフ ラウンド



JLEAGUE

- 各グループ同順位同士の H&A 戦
 - 1クラブあたり2試合（H1試合）
 - 全20試合
 - 1試合目は延長 / PK は実施しない
 - 2試合の合計で勝敗が決しない場合、延長 → PK
- 賞金・理念強化配分金・特別助成金
 - 賞金：1位 1.5億 / 2位 6,000万 / 3位 3,000万
 - 理念強化配分金（競技順位）：総額 8.1億
 - 理念強化配分金（人気順位）：総額 2.7億
 - 特別助成金（1～20位まで）：総額 1.2億
 - 1位は ACL エリート 2026/27 の出場枠を獲得

* ACL エリート 2026/27 枠の優先順位

① 2025 明治安田 J1 1位

② 2026 J1 特別大会 1位

③ 2025 明治安田 J1 2位

以降、2025 明治安田 J1 の順位で繰り上げ

ALL RIGHTS RESERVED, JAPAN PROFESSIONAL FOOTBALL LEAGUE.3

両大会とも大会の構成の大枠は同じになっており、地域リーグラウンドと最終的に順位を決定するプレーオフラウンドの2種類のラウンドで構成いたします。J1では、20クラブを東と西の地域別に10クラブずつに分けた編成を行います。各リーグで10クラブのホーム&アウエーの総当たり戦を行い、全部で180試合、1クラブ18試合となります。90分で試合が決しない場合はPK戦を行い、その際の勝点は勝利の場合が2、敗戦の場合が1となります。なお延長戦は実施いたしません。特別助成金総額18億円のうち、10.8億円を勝点1ごとの特別助成金としてご用意いたします。勝点1あたり200万円、90分で勝利し勝点3だと1試合あたり600万円、全ての試合を90分で勝利すると最高で1億800万円が獲得可能となります。

東と西の地域それぞれ1位から10位までの順位が決定した後、それぞれのグループの同じ順位の2チームがホーム&アウエー制で最終的な順位を決定します。1位同士から10位同士まで戦い、それぞれの勝敗で1位から20位までの最終順位を確定いたします。

賞金や理念強化配分金につきましては、通常シーズンの半分のシーズンになりますので、半分の金額をご用意しています。賞金は1位、2位、3位それぞれ半分の金額、理念強化配分金の競技順位・人気順位もそれぞれ半分の金額をご用意しています。また特別助成金として1位～20位まで

それぞれ順位が変わることに助成金の総額で 1.2 億円を配分したいと考えています。1 位が ACL エリートの枠を獲得することになりますが、その分 2025 シーズンは、通常 3 枠ある ACL エリートの出場枠を 3 枠から 2 枠に減らすこととなります。優先順位の順番としては、2025明治安田J1リーグの 1 位が 1 枠目、2 枠目がこの特別大会の 1 位、3 枠目が 2025明治安田J1リーグの 2 位、以降、2025明治安田J1リーグの 3 位以降を繰り上げていく形となりますので、この特別大会の 2 位以下を繰り上げることはありません。

J2・J3リーグ特別大会 ①地域リーグ ラウンド

【北地域グループ】 10クラブ
【東地域グループ】 10クラブ
【西地域グループ】 10クラブ
【南地域グループ】 10クラブ

- 各グループ内で H&A のリーグ戦
 - 1クラブあたり 18 試合（H9 試合）
 - 全 360 試合（4グループ合計）
- 90分で勝敗が決しない場合は PK戦
 - PK戦による勝点：『勝利2』『敗戦1』
 - 延長戦：実施なし
- 勝点1ごとの特別助成金（総額 5.4 億）
 - 全 40 クラブに勝点 1あたり 50 万
 - 勝点 3の場合 → 1試合あたり 150 万
 - 最大で勝点 54 → 2,700 万が獲得可能

*グループ分けは、2025 シーズン終了後の昇降格を以て決定します。
なお、異常気象（＝ 2-3 月頃にカーン開催が可能な）クラブのバランスや、同地区内クラブができる限り隣グループになるように等、調整の上で決定します。

JLEAGUE ALL RIGHTS RESERVED, JAPAN PROFESSIONAL FOOTBALL LEAGUE15

J2・J3リーグ特別大会 ②プレーオフ ラウンド

- 各グループ同順位同士のノックアウト方式
 - 1試合制（＝ H&A 制ではない）
 - 1クラブあたり 2 試合（H0～2試合）
 - 全 40 試合
 - 90 分間で勝敗が決しない場合、延長 → PK
- 賞金・特別助成金
 - 賞金：1位 1,500 万 / 2位 750 万 / 3位 250 万
 - 特別助成金（1～40 位まで）：総額 6,000 万

JLEAGUE ALL RIGHTS RESERVED, JAPAN PROFESSIONAL FOOTBALL LEAGUE15

続いてJ2・J3リーグ特別大会です。こちらも構成は同じですが、40 を 10 クラブずつ地域ごとの 4 つのグループに分けます。PK 戦等はJ1リーグ特別大会と同様ですが、特別助成金は勝点 1 あたり J1 の 200 万円に対し、J2・J3大会は勝点 1 あたり 50 万円、勝点 3 で 150 万円、最高で 2,700 万円獲得可能となっています。順位決定のプレーオフラウンドですが、こちらは同じ順位のクラブが 4 チームございますので、ホーム&アウエーではなく 1 試合制のノックアウト方式となります。1 回戦の勝ち同士だけではなく、負け同士でも試合を行っていただき、各グループで 1 位～4 位まで順位をつけ、10 グループの中で 1 位～40 位まで最終的に順位をつけます。賞金もJ2とJ3の賞金を合わせたものを半分にする形で、厳密に半分にすると 250 万円単位で細かくなるので少し繰り上げて

このような形の賞金となっています。

J1と同様に1位～40位の順位で特別助成金総額6,000万円を配分いたします。

2026 移行期シーズン特別大会 _まとめ



J 1 リーグ特別大会 J 1 20クラブが参加 / 全200試合

J 2・J 3 リーグ特別大会 J 2・J 3 40クラブが参加 / 全400試合

- 地域に分かれたリーグ戦ラウンド
- PK戦による完全決着方式
- J 1 特別大会のチャンピオンには ACLエリートの出場枠
- 『勝点1ごと』『最終順位ごと』の特別助成金（総額 18億円）

J LEAGUE

ALL RIGHTS RESERVED, JAPAN PROFESSIONAL FOOTBALL LEAGUES

特別な移行期のシーズンは、この2つの大会で、J1だけの大会、J2・J3の大会、それぞれ200試合、400試合を行います。繰り返しとなりますが、注目いただきたいポイントとしては、地域に分かれたリーグ戦のラウンドとなることから多くのダービーマッチが開催されること、それからPK戦による完全決着制となることです。リーグ戦で統計をとると3試合に1回くらいがドローになりますので600試合あるとすると150試合～200試合くらいPK戦が実施されると思います。ちょうどこの大会が終わったあと2026年のFIFAワールドカップが開催されますので、PK戦に注目する機会にもなればと思っています。

【質疑応答】

Q: シーズン移行期の特別大会についていくつか確認です。まず、冠スポンサーは決まっていますか。

A: 樋口執行役員

放映も含めて確定事項はありません。確定次第、発表いたします。

Q: 連覇などのカウントの確認ですが、リーグ戦ではないので2025シーズンで優勝し、2026年特別大会で優勝、2026/27シーズンで優勝したチームが同一の場合、3連覇という扱いではなく、2連覇という扱いでいいですか

A: 樋口執行役員

今後の議論となります。たとえば、シーズンチャンピオンになったクラブは次のシーズン、ゴールドのJマークをつけますが、2025シーズンの優勝チームは付けるべきなのか、特別大会なので次の2026/27シーズンで付けるべきなのか等、詳細事項については今後議論が必要だと思っています。

Q: 現時点で未確定ですか。

A: 樋口執行役員

はい。未確定です。

Q: 時期は 2~6 月？

A: 樋口執行役員

試合の日程はいくつか案を作成しています。開幕は 2 月で間違いないと思います。終わりは、5 月 25 日頃からの公式なワールドカップの休養期間と並行する形になることが濃厚です。日本代表選手、各国の代表選手が不在の中にはなりますが、6 月の頭ぐらまでやるのが現状のプランの主な内容です。

Q: 年間順位の決定方法で反則ポイントを除いたのはどのような考えからですか。

A: 樋口執行役員

反則ポイントが順位の要件に入っていることが、これまであまり大きな論点になっていませんでしたし、Jリーグでも過去、反則ポイントにまで至って順位が決まったことがありませんでした。議論の発端となったのは今シーズン「審判員の判定に明らかな間違いがあった場合、事後的に懲罰を科さない」というルールを導入したことでした。対象となるのがレッドカード(退場)1 枚のみに限定することになりましたが、議論の中でイエローカード(警告)1 枚や、2 枚の退場全部を含めたらどうかといった意見もありました。結果的に一発レッド(退場)だけが対象になりましたが、その議論の中でイエロー1 枚の明らかな誤りがあった場合でも懲罰が覆されることはないことにも関わらず、非常に重要な順位決定の要件には反則ポイントとしてどんどん積み重なってしまうという議論がありました。事後的に懲罰が科されなくなる対象がレッド 1 枚に限られるのであれば、反則ポイントの運用も見直してはどうかという議論があり、さらにこの 30 年間、一度も順位決定の際に反則ポイントが適用されることに至っていないことから、順位決定方法から除くという判断をいたしました。

A: 野々村チェアマン

私はかつてクラブ側の立場であった際に、この点は整理しないと難しいことになると思うとずっと思っていました。審判も間違えることがあり、間違っただとしても取り消すことが出来ないルール設計になっている中では、反則ポイントを順位の要件にすることは誰にとっても幸せではないと思っていました。

A: 仲村広報部長

「審判員の判定に明らかな間違いがあった場合、事後的に懲罰を科さない」というルール変更につ

きましては、今年 2024 年 5 月 21 日にリリースし、今シーズン途中から適用を開始いたしました。

<https://about.jleague.jp/corporate/pressrelease/post.php?code=4be5b5b5-eaaa-45da-9a78-ce71f53102d7&y=&m=&q=%E6%87%B2%E6%88%92>

Q: J1はダービーマッチが発生しやすくなったり、J2とJ3がこのシーズンに限っては同じカテゴリーで行われたりという特別感もある大会になっていますが、改めてシーズンを移行する前、どのようなシーズン(大会)にしてほしいか、意義のようなものがあれば教えてください。

A: 野々村チエマン

いつもと全然違う大会です。大会方式も違えば PK 戦も実施。色々な楽しみ方があります。カテゴリーが違う近くのクラブとの対戦も普段は味わえません。我々からも楽しみをたくさん提供していこうと思いますが、サポーターや地域の皆さんでも新たな楽しみ方を見つけていただけたらいいと思っています。

もう一つ、翌シーズンから新しい世界を見せていかなければいけない中で、私たちが一番必要としているのは、今いる仲間とともに新しい人たちをどう連れてくるのかという点です。色々な切り口で新しい人たちが関わりたくなるような大会になるといいと思っています。

Q: PK 戦を導入するというのですが、その経緯、意図を教えてください。

A: 野々村チエマン

代表チームが FIFA ワールドカップで PK がうまくいかないと、Jリーグも PK 戦を実施すれば良いということと言われることも何年前からありました。当然、通常のリーグ戦の中でそういうことを実現するのは難しい。ただ、この時期のこの大会であるなら色々なことがトライできると思いました。観戦する方々に別の楽しみ方を提供するという意味でも必要でしょうし、高校生ぐらいまで PK 戦に年間を通して何度か関わるのがあっても、プロになるとなかなか PK 戦を経験することがありませんので、選手たちにとっても一つの良い経験になれば良いと思います。何かが掛かったものの中で PK をやるというのも、一つの経験と成長につながるということです。

Q: 昇降格なしという結論に至るまでいろいろな議論があったと思いますが、どのような議論があって、最終結論に達したのでしょうか。

A: 樋口執行役員

「0.5 シーズン」と呼んでいますが、代表招集期間を考えると、通常の運用での実施時期は 2 月から 5 月 25 日の手前までとなり、実は 3 ヶ月ぐらいしかないシーズンになってしまいます。3 月・5 月の代表期間で中断するとすると、J1で 16、17 試合ぐらいしか入りません。よって、通常通りに大会をやろうとすると歪な大会方式にせざるを得ないというのが大前提にありました。そのような大会方式

にしてインターナショナルウィンドウ、オフィシャルレストを休んで、歪な大会方式だけ昇降格を含めて実施するか。それとも、ある程度の公平感のある大会方式でインターナショナルウィンドウやオフィシャルレストの期間もやると割り切るのか。これが一つの大きな論点としてありました。

代表選手がいない中でもやるとなったときに、半年間で降格という非常にクラブや地域にとって影響の多いことが発生することはなかなか許容できないのではないかとこのことをクラブとも議論して結論に至りました。

A: 野々村チェアマン

これに関しては大きな反対意見はありませんでした。反対するとしたら昇格したいクラブですが、その方々でも、これまでの年間を通した中で力の比べということをよく理解しているので、半分以下の期間の大会で昇格することを望む声はありませんでした。むしろこの大会を通してビジネス的に皆どのように次に向かっていけるかを考えたときに、最も良いと思われる大会をいくつかステークホルダーにも提案し、最終的に皆がある程度納得できる大会になりました。

Q: J2・J3の特別大会について。 J2・J3を一緒にするとした理由を教えてください。

A: 樋口執行役員

J1も含めて一緒に開催するのはどうかという議論もありました。

一方で、FIFA ワールドカップ直前の大会ですので、J1リーグを中心に、FIFA ワールドカップ出場を目指す選手のことを考えると、なるべく強度の高い試合をしたいということ、またビジネス面においても、J1とJ3では実力差も大きく、お客様の楽しむ形も影響が大きいのではないということから、J1は(J2, J3と)分ける形が良いということになりました。一方J2・J3も分けてしまうと、この機会で見られない要素も減ってしまいます。そのあたりのバランスを考慮し、J1は別開催、J2・J3と一緒に開催するという形になりました。

Q: 降雪地域のクラブは地域別に分けるとJ1は東地域でJ2・J3は北と東に集中してしまうイメージがありますが。現状でどのような分け方を考えていらっしゃいますでしょうか？

A: 樋口執行役員

現状、北、東などと記載していますが、あくまで便宜上で、実際には 2025 シーズンが終わって昇降格の結果を見ないとどのあたりで区切るのが相応しいのか分からない状況です。たとえば、北だけで組んでしまうと、2月・3月でホームゲームができないチームばかりになってしまい、リーグ戦が成り立ちませんので、そのあたりは完全に地域で分けずに、降雪地域をバランスよくいれるなど考えていきたいと思えます。例えばJ1で来年の編成の場合は湘南ベルマーレとアルビレックス新潟で東西が分かれると思いますが、2026年は場合によっては湘南ベルマーレだけ西に行ってしまう可能性もあります。J2・J3も南は九州がメインになりますが、四国のあたりが分断されてしまう地域になりま

す。例えば山口や鳥取を南グループに入れると、四国は全クラブが同じグループでリーグ戦ができるかもしれません。2025 シーズンの昇降格を見たうえで最終的に調整したいと考えています。

Q: 特別大会の期間中は天皇杯も開催しないというお話でしたが、所管が日本サッカー協会(JFA)になると思うのでどこまでご回答いただけるかわかりませんが、天皇杯も秋開幕になるのでしょうか。

A: 樋口執行役員

JFA にお問合せいただければと思います。

Q: スポンサー関連に関する確認ですが、基本的に複数年契約のリーグスポンサーの場合、年度ごとの大会なので特別大会に関しても問題がないのか、半年間ずれることによって、複数年契約がリーグに対して半年分ずれる契約になるのか、特別大会は新たなスポンサーを募る形になるのか、既存のスポンサーはどのような契約形態になるのか教えてください。

A: 野々村チエアマン

ケースバイケースになると思います。特に、数ヵ月前からこの話をしていますが、リーグのパートナーの皆さまから困ったという話はなく、むしろ一緒に盛り上げていくためにはどうすればいいかといった前向きな話しになっています。契約形態に関してはケースバイケースになります。

Q: 場合によっては、既存の複数年契約のスポンサーがシーズン移行後、シーズン途中の 12 月で契約を終えるようなケースもあり得るということでしょうか。

A: 野々村チエアマン

そうならないような調整をそれぞれスポンサーとどう結んでいくのか。0.5 にするのか、1.5 にするのか、はたまた 2.5、3.5 にするのか、ケースバイケースかとは思いますが、途中で契約が終了することになるパートナーはないと考えています。

Q: 連覇などのカウントは未確定ということでしたが、Jリーグはスポーツ文化の振興、あるいはサッカー文化の振興の意でフットボールという用語を使い、ルヴァンカップの表彰では「WINNERS」というボードを立て、リーグ戦の「CHAMPIONS」とは区別をしています。この特別なシーズンの覇者を果たして「CHAMPIONS」と呼んでいいのかと思うのですが、0.5 シーズンを連覇としてカウントするか未確定ということの見解、また未確定の理由を教えてください。

A: 樋口執行役員

まだクラブも含めてしっかりとした議論が出来ていないというのが正直なところです。現状の大会方式に至るまで、二転三転どころではない多くの議論がありました。まずはこのシーズンオフのタイミン

グで皆さまに発表するということを前提に詰められるところを詰めていった状況です。大枠が固まってきたので、これをリーグ戦と考えるのか、特別大会と考えるのか等、様々なことを今後、議論していくことになります。

Q: シャーレを渡す可能性もありますか。

A: 樋口執行役員

現時点ではゼロではないかもしれませんが、J1リーグとは異なる大会になります。